

## (別紙)

様式第1号(第5条関係)

## 会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度 第3回美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会
開 催 日 時	令和元年11月27日(水) 14時30分 開会 16時30分 閉会
開 催 場 所	美幌町民会館 地域活動室
出 席 者 氏 名	【会議委員】 横山委員、山野寺委員、小寺委員、信太委員、鎌田委員、村田委員、 水島委員、井上委員
欠 席 者 氏 名	川上委員、青砥委員
事務局職員職氏名	小室総務部長、後藤政策主幹、中村政策担当主査、金子政策担当
議 題	1 委嘱状交付 2 副町長挨拶 3 会長、副会長互選 4 現行総合戦略の効果検証及び次期戦略策定に向けての意見交換について 5 その他
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	2名
会 議 資 料 の 名 称	・美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要 ・まち・ひと・しごと総合戦略 基本目標・KPI
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した全部記録
	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
小室総務部長	<p><b>次第1 開会</b></p> <p>定刻になりましたので、これより令和元年度第3回美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会を開催いたします。司会は私、総務部長の小室でございます。どうぞよろしくお願いいたします。この度は、美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る「美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会」委員をお引き受けくださり誠にありがとうございます。今回は第3期の創生推進委員会となりまして、条例によりこの創生推進委員会の定数は10名以内となっており、ちょうど定数の10名の皆様方で構成されています。この推進委員会の役割や推進内容などにつきましては、事前に担当者からご説明申し上げておりますので、省略させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、委嘱状の交付をさせていただきます。本来、平野町長が行う予定でしたが、他の公務で上京しておりますので、代わって高崎副町長より委嘱状を交付させていただきます。お名前を呼び上げますので、恐縮ですがその場にご起立をお願いします。</p>
高崎副町長	<p><b>次第2 委嘱状交付</b></p> <p>&lt;委嘱状交付&gt;</p> <p>美幌商工会議所 専務理事 横山 清美 様  美幌町農業協同組合 総合企画推進室長 山野寺 秀紀 様  美幌町森林組合 代表理事組合長 小寺 敏隆 様  美幌観光物産協会 事務局長 信太 真人 様  北海道美幌高等学校 校長 鎌田 一宏 様  網走信用金庫美幌支店 支店長 川上 勝利 様（欠席）  美幌地区連合会 特別執行委員 村田 純一 様  北海道新聞社北見支社 営業部次長 青砥 俊之 様（欠席）  一般公募 水島 純子 様  一般公募 井上 暢恵 様</p>
小室総務部長	<p>任期となります今後2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。続きまして、高崎副町長よりご挨拶申し上げます。</p>
高崎副町長	<p><b>次第3 副町長挨拶</b></p>
小室総務部長	<p>会長の互選を行います前に、事務局を紹介させていただきたいと思っております。  （小室総務部長、後藤政策主幹、中村政策担当主査、金子政策担当挨拶）</p> <p>本日第2期目の初めての委員会ということで、初めて顔を合わせる委員の方もいらっしゃると思いますので、一言ずつ自己紹介をお願いします。</p> <p>&lt;委員自己紹介&gt;</p> <p>横山委員、山野寺委員、小寺委員、信太委員、鎌田委員、村田委員、</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
小室総務部長	<p>水島委員、井上委員</p> <p><b>次第4</b> <b><u>会長、副会長の互選</u></b></p> <p>次第に戻りまして、会長・副会長の互選に入りたいと思います。まずはこの委員会の会長を選出したいと思います。会長につきましては、この会を総務し、この会の議長となります。任期につきましては、委員の任期と同じです。会長の選任につきましては、美幌町附属機関条例に基づきまして、委員の互選によって行うとされていますので、推薦や立候補などありましたら、ご発言をお願いしたいと思います。</p>
村田委員	<p>事務局案がありましたら、お願いします。</p>
中村政策担当主査	<p>横山専務を会長とする案を提案します。</p>
小室総務部長	<p>前期に引き続き、横山専務に会長をしていただきたいと思います、いかがでしょうか。</p> <p>（一同異議なし）</p>
小室総務部長	<p>それでは、引き続き横山委員に会長をお願いします。よろしく申し上げます。次に、副会長の選任でございます。横山会長、どなたか推薦はございますか。</p>
横山委員	<p>前期に引き続き水島委員を副会長とする案を提案します。</p>
小室総務部長	<p>では、前期に引き続き、水島さんに副会長をお願いしたいと思います。皆さまどうでしょうか。</p> <p>（一同異議なし）</p>
小室総務部長	<p>水島委員よろしいでしょうか。それでは副会長につきましても、引き続き水島委員をお願いしたいと思います。</p> <p>会長に横山委員、副会長に水島委員で決定させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p> <p>就任された会長、副会長から一言ずつ挨拶をお願いします。</p> <p>（会長、副会長挨拶）</p>
小室総務部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>大変恐縮ではございますが、ここで副町長は他の業務のため退席させていただきますので、よろしく申し上げます。</p> <p>（高崎副町長退出）</p>
小室総務部長	<p>それでは、レジュメに従いまして進めていきますが、議事進行につきましては、先ほど選任されました横山会長をお願いしたいと思います。会長、副会長については、席の移動をお願いします。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	<p>早速議事に入らせていただきます。</p> <p>事前に配付させていただいた資料に基づき、事務局から説明をいただきたいと思います。また、今回は委員の皆さまから幅広く意見をいただき、次期の戦略策定に向けた参考とする趣旨から、今後の進行については、事務局をお願いします。</p>
中村政策担当主査	<p><b>次第5</b> <b><u>現行総合戦略の効果検証及び次期戦略策定に向けての意見交換について</u></b></p> <p>（資料に基づき内容説明）</p> <p>産業分野から順番にそれぞれの専門分野について、各団体における取組などご発言をお願いします。</p>
横山会長	<p>（産業分野）</p> <p>それでは皮切りに私の方から。産業分野の取組ということで、全ての商工業ではありませんが、一部観光面も携わりながら、商工会議所としての地方創生への取組事例を紹介させていただきます。商工会議所は全国に515の商工会議所がありまして、その頭の日本商工会議所の三村会頭の発言の中にも地方創生については、観光産業が主であるという発言もあることから、うちの方でもその流れを汲み、ここにご参集いただいております農業協同組合、森林組合、観光物産協会、網走信金、町を含めまして、平成29年度から美幌町観光まちづくり協議会を設置し、主たる産業を観光とするため、各種事業に取り組んでおります。本来であれば、商工会議所は中小企業庁、経済産業省の補助金を活用しながら色々まちづくり等々を進めるわけですが、今回は農林水産省の補助金を5年間で約5千万円いただきながら、事業を実施しております。そういった形の中で、地方創生の理念に基づき、美幌町民が豊かになるまちづくりをとという形で進めさせていただいております。また、各産業分野の方からお話しいただけると思いますが、本町は農林業が貴重な地域資源ということで、いかにその地域資源を商工会議所が付加価値をつけて、高い商品を開発、販売していくかということも事業展開しておりまして、美富にあります美幌療育病院ワークセンターぴぼろと連携し、農福連携という事で、美幌高校や北見市にある地域食品技術加工センターなどと産学官によりますクラスター事業として、商品開発や食育事業を行いながら、広く保育園児から食育事業を実施し、美幌にはこういう高校があり、美幌に住めばこんないいことがあるということの商品開発と食育を兼ねて、現状実施しております。そうすることによって、少なからず美幌町に残っていただき、美幌町で働いていただく、井上委員おっしゃるとおり、美幌町で生まれ、現在も美幌で働いていただくそういう方をできるだけ増やすことは現状不可能ですが、なんとか残して維持を図っていきたくと努めさせていただいております。また、本来の商工会議所の業務としまして、地方創生の数値目標の従業員の増加という部分では、従業員の維持増加させるために、地元の中小企業をいかに存続させなければならないかということがネックとなるわけで、今その取り組みを国の認定を受けまして、それぞれ地元の企業の経営戦略、事業承継、起業家支援対策などの事業を実施しております。今後も商工会議所としましては、農商工連携ですとか、地域資源をうまく活用しながら観光振興を図り、域外の需要を獲得するため、地方創生に取り組んでおりますので、</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
中村政策担当主査	<p>皆さんのご協力を賜りたいと考えております。</p> <p>活動内容の中で食育事業のご紹介いただきましたが、この総合戦略の中に食育という言葉はありません。町ではまとまった取組はありませんが、例えば給食センターで農協さんから年に1度野菜等の提供をいただき、地場産品の理解をいただくとか、土地改良区の田んぼの学校、農協青年部による食育事業など個別で実施はしておりますので、この部分は次期戦略に向けて検討しているところです。</p>
山野寺委員	<p>農協の立場でお話をさせていただきますと、先ほど説明いただいた基本目標の数値目標として、農畜産物の販売額を掲げていただいているとおおり、基幹産業である農業の販売額増加、農家さんの所得額増加を第一に考えて取り組んできております。ただ農業情勢も大きく変わってきております。ここで平成26年に掲げた販売額97億から昨年は128億、今年の見込は同額の128億で設定されておりますが、農協の取扱いのみで現在見込んだ数値では132億ということで、過去最高を見込んでおります。人口減少に対応した取組ではありますが、当然農家戸数が減少しており、それに応じて作付体系の変化、農作業体系の変化が生まれてきておりますし、併せて消費動向、何を消費者が食べたいかというのもありまして、この5年間を見ても、農家の方が作っているものとか作り方とか大きく変化しております。その技術的な指導を農協がさせていただいて、何とか今年は史上最高の取扱高になりそうということで、ここでも今年の実績132億に近い数値が入られるという事で非常に良い結果が得られると思っておりますが、農業なので今年の春先も強風が吹いて被害が出ましたが、天候に左右されるところが多く、今年の上最高というのも農協が指導した結果と100%そうですと言えればよいのですが、やはり天候に助けていただいた部分が実際のところなので、これがどこか違うタイミングで雨や風が吹いたときには逆に史上最低にもなり得るといところが農業の非常に厳しい世界です。それを少しでも回避するため、農協は技術的指導を行っているところですが、今回ここに掲げられた新規就農者の確保、育成の部分の取組について、この戦略の中で色々対策を打っていただいているというところは、これまでも成果を得られていると思っておりますし、今後も必要と思っておりますので、一緒に取組を進めていきたいと思っております。農業の単独の取組でいきますと、役場では農政担当もおりますし、逐一担当者とは打合せさせていただきながら、何が今必要かという対策を町とも協議しながら進めているところですので、その点について新たにこうしたところが必要というのは私のところでは持っておりませんが、ただこの会議の中でぜひ提案したいという点では、産業全体を盛り上げるということが非常に重要と思っております。農業だけが盛り上がっても他産業が衰退すれば、町全体の活気が失われると思っておりますので、産業間のみならず町の方とも協働した何かの取り組みですとか、例えば先ほど食育の話がでましたが、美幌町の作物であるジャガイモで、この会議でも何度かお話させていただきましたが、特産のサッシーという品種が全国のどこが産地ですかと言った時に、美幌ですと言い切れる品種のイモがありますが、多分ここにいらっしゃる方もあまり知らないだろうと思っております。そういったところを知っていただく取り組みですとか、例えば美幌では人参、玉ねぎ、ジャガイモをたくさん作っているところをなかなか美幌のものですよというところを直接農家の方がスーパーにおろしているものを目にすることはあるかもしれませんが、農協を通じて売っているものはなかなか見えにくいというところもあると思</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	<p>ますので、そういったところを例えばシティさんとかアークスさんとか、今のタイミングですと全国では国産のアスパラはどこにも売っていませんが、先週の日曜日にアークスさんに行ったら、美幌産のアスパラが並んでいました。その横にはオーストラリア産など外国産しかないのが今の時期なので、そういったところを知っていただき、食べていただくなどの取組を主には農協がやるべき仕事ですが、少しでも町民に知っていただく機会は増やすべきと思っておりますので、そういった紹介含めてこの会議で何か進めて行ければと考えております。</p>
横山会長	<p>今山野寺委員からお話のあった美幌町のジャガイモのサッシーですが、たまたま先般商工会議所で事務局を持っているびほろブランド認証協議会があり、今年そのサッシーを使ったコロッケがクレードルさんで新たに商品開発され、びほろブランドとして認証させていただきましたので、これを契機に委員のお話あった部分併せて、美幌のジャガイモイコールサッシーという形になるように普及させていこうと考えております。</p>
中村政策担当主査	<p>事務局ではふるさと納税も担当しております、寄附いただいた方には3割以内で地場産品を返礼品として登録させていただいております。サッシーを使ったコロッケについては、今年クレードルさんからご提案いただき、今年度途中から返礼品として登録しております。ただし、ふるさと納税の返礼品については、町外の方へのPRにはなっていますが、町内の方へのPRにはなっておらず、なかなか知れ渡っていないのが現状と思えます。また、農業従事者という観点では、親から子への経営を引き継ぐのが基本ですが、町のみらい農業センターにおいて、全く農業に関係のない方に農業の研修をいただき、経営を継承する取り組みも行っております。ただし、絶対数で農業戸数は減っている中、こういった農業経営をして行くか、農協、町一体となって、取組を進めて行きたいと思えます。</p>
小寺委員	<p>数値目標にもなっているのですが、認証材の出荷額がゼロとなっております。今年から認証林の基準が変わりまして、今まで殺鼠剤が例外的に使用可能だったものが、今年から使用が禁止になりまして、そうするとネズミの被害が出るものですから、一般の山主さんがこれでは無理だという事で降りちゃっているのが多く、美幌森林組合自体も降りております。この例外措置をもう一度申請は出しているのですが、もう一度認められるとまたこの数値もあがってくるのですが、今の段階ではゼロとなっておりますが、しょうがないのかなという気はします。</p>
中村政策担当主査	<p>目標値がFSCという国際認証制度を活用し、付加価値をつけた出荷量としているものですから、現状では小寺委員がおっしゃるとおり基準が厳しくなってしまう、出せなくなってしまうというのが背景にあるということです。このあたりが、町経済部と森林組合で今後どういう方向性で動いていくかというところは、現在は協議中ということでしょうか。</p>
小寺委員	<p>引き続き例外の申請を出しているのですが、それが認められれば戻ると思うんですが、その結論がまだ出ておりませんので、このような状況になっております。</p>
信太委員	<p>観光物産協会として、私の立場からなかなか言いづらい部分もありますが、個人的な部分で申し上げること、今までの現状それと現在の状況につ</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	<p>いて少しお話しできることがあればと思うのですが、このK P Iに載っているのがきてらすと特産品と入込客数が数値化されています。観光業というのは基本先ほど横山委員もおっしゃられたとおり外貨獲得、外部需要の獲得、外から人が来てほしいということで、直接人口増に繋がる様な産業ではないんですけれども、地域の魅力を発信することで、その土地の人が長く住みたい、この町はいいところだということで、間接的に人口減が食い止められる産業であると考えております。そういう部分では、先ほど横山委員がおっしゃられたとおり平成 28 年に観光分野における町の革新戦略ビジョンができ、観光まちづくり協議会ができたことは、オール美幌の体制は出来上がりましたが、まだまだ組織としてどう動いていくかという点では、商工会議所さん頼みになってしまっていることは多々あることから、協会としてもどういうふうに協力していくのが今後の課題と考えております。外から人を呼ぶという事は、この特産品開発という部分は非常に大きく、今年度見込みが7ということで、これは町の特産品開発に対して助成がでたことですね、取り組む方が増えたことから、大きく伸びたのではないかという事と、平野さんのメープルシロップを取り組まれているということもありますので、そういう新しくできているものを我々協会としてはバックアップできるような体制で今取り組んでおります。物産館ぽっぽ屋という一つの拠点が一つの核となっているのかと思います。観光入込客数については、美幌峠の入込客数が大きいところですが、今年度見込み73万人、かつては130万人の入込みがありました。やはり、日本、世界に誇る美幌峠、美幌という名前、冠のついたわが町の観光資源であるということで、町民に向けては魅力発信実行委員会というところで、商工観光グループ、商工会議所、物産館、地域が一体となって、町民の皆さんに美幌峠の魅力を発信するという試みも取り組んでおります。ただ、昨年様に胆振東部地震や自然災害、今年は韓国との政治摩擦が起きるとインバウンド、内需が直接反映するので、ここは引き続き美幌峠を町民にPRする方法を磨いていきたいなということで、実は昨日、今日と美幌中学校2年生の生徒さんを対象に美幌峠で校外学習を行いました。これは教頭先生の発案で行いました。昨年までは津別中学校で行われたもので、教頭先生が転勤してきて、美幌でもできないかということで、津別峠のモデルをそのまま美幌峠を持ってきて、津別峠で雲海ツアーを行っている上野さんという方の協力をいただき、無償で現地へスクールバスできた美中生30人、3クラスに対して、僕もガイドをさせていただきました。そうしたところ、やはり生徒は美幌峠をあまり知らないし、雲海を見たこともない、屈斜路湖の向こうには網走川があるとかですね、これから勉強していくことなんでしょうけれども、身近な美幌の良い所、素晴らしいところをどうやったら教えられるのかなというのを痛感しました。今回は、美中生を今年度単発で実施したのですが、継続してできる方法があるとか、北中生や小学校、高校生にもこういった地元学というものを育成目的もあるのですが、将来的に美幌に残る残らないにかかわらず、郷土愛を学んでいただくということは将来的にも人口減に繋がるのではないのかなというのが昨日今日やってみて感じたことです。まだまだ話したいことはいっぱいあるのですが、世界的な部分では先般、倶知安の方でG20世界の観光大臣が集まって、これからの持続可能な産業は観光であると宣言されて、国でいうと来年の五輪に向けて、インバウンド4000万人という大目標があります。これから観光が本当に核になる産業になっていくことは分かっているんですけれども、田舎町において、どのようにみんなで一体となって、外貨獲得していくかというのを考えて行きたいと考えておりますが、まずは地域</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
中村政策担当主査	<p>の魅力を磨いて、人口減を食い止めるというのが目標ですので、これからこの会議において、発言できればいいかなと感じているところです。</p> <p>戦略の4本柱の構成については、まずは産業のそれぞれの分野で稼ぎ、雇用拡大し、人口減少を食い止めるというストーリーになっています。今お話のあった観光まちづくり協議会は多様な主体により構成され、一体となって取り組んでおり、まさに観光で稼ぐというテーマになっていると思いますし、9月に北海道知事が美幌町に来町された際に、道内空港が一括民営化され、計画上は今の利用客数を倍増させることになっており、おそらくそこには外国人観光客も含んだお話になるかと思ひまして、それに対応できる体制を地域には、求められることをおっしゃられておりました。今までの見るだけの観光、物産だけではなく、町に来ていただいた方にいかに滞在をしていただき、稼げるのがキーワードになるかと思ひます。</p>
村田委員	<p>私は農業も観光も素人なんですけれども、新聞を見て思いついたのですが、今日の道新に出ていたと思うんですが、釧路市で小型翻訳機ポケットを9カ所位設置するというのが出ていました。これから外国人の方に対応するためには、美幌の中でも役場、観光案内所や道の駅にはそういうものが配置されていた方が良いのではないかと思います。ポケットが良いのか今は色々なものがあると思いますので、そういう機械の設置も早めにした方が良いかと新聞を見て思いました。それと最近の話ですが、北見でハッカの栽培含めて、工大と共同事業で、5年間で800万の事業をやっているということです。この地域には、工大だけではなく、農大もありますから、農業なりそういう分野で、共同開発できる部分はあると思いますので、ぜひそういうところと連携することも考えてみてはと思います。また、町としてどれくらいの外国人労働者がいるか把握しているかはわからないのですが、そういう人に対しても美幌町を一同にPRする場を設けて、国に帰ったのちにも美幌は良い所ですと、こういう見る所がありますと周りに広がりが出るような取組もすぐに効果は出ないと思いますし、地道ではあると思いますが必要かと思ひます。副業の関係では、最近は公務員、企業でも認める状況にありまして、私も昔組合の関係で、農家に援農に行ったこともありまして、やはり今農家の方も秋になると忙しくて、私も玉ねぎ農家に頼まれて手伝っているのですが、やはりそういう時には役場の職員なり、農協の職員もそうなのかもしれません、土日くらいそういうところに行って副業してもいいのではないかと最近の傾向ではやれるようになってきているので、是非検討してもらえればと思います。</p>
鎌田委員	<p>美幌町の前の前が倶知安におりまして、ちょうどこの事業に関わっており、今ちょうど倶知安のG20の話もありましたので。私がいたときに、町長が誘致をかけていて、その中で参考になるかわかりませんが、私どもの学校教育の中でも、食と観光をキーワードにしてやっています。その中の大事な点が、まちづくりをするときに地元の方のリピーターを集める方法、地元外の方を外からの人を集める方法、このプログラムを改革する必要があると、これは私も思っております。それで先程来出ている美幌峠ですか、私も来たときから気になっていて、倶知安では和牛を飼育していましたので、例えば観光地に行つて極上のコーヒーと和牛を朝のモーニングで出すとか、市城島スイーツという高級レストランで、時間外にお客さんに全部見せるプログラムを作っているんですね。食材を使ってレストランに出すという事で、たまたまシェフと我々関係があり、そういう話を聞</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	<p>くと極端な差別化をやる必要があるのかなと参考までですが。そういう授業を高校でも話をしながら、今社会ではこんな動きがあるんでそういうところにいわゆる着眼をするということをしていかないと、新たなことを取り入れるため、一番大事な地元を知るという事が大事なんです。地元を知らないで新しい文化を取り入れることはちょっとできないと。そんなことで子供らにいろんなところに出て行って、見て来てもらうことが大事だと思います。これは産業の総合化という意味では必ず必要になることだと思います。それから先ほど出ていた語学力なんです、私函館の大野にいましたので、新幹線の駅が目の前なんです。ここは今5か国語くらいの表示がトイレ等にされております。倶知安も北斗もそうなんです、たまたま海外の方がいるので、子供らがセブンなどでバイトをしていると自然に英語ができるようになります。倶知安では500人ほど英語をしゃべれるような人を作らなければならないということで、今ハードとソフトがあっていないのが実態なんです。よって日本人が間に合わないので、海外から来ていて雇用していると。そんなことで、美幌町で何ができますかということをお皆さんと議論して、それに対してソフトとハードをそろえて行くという事がかなり大事な視点ではないかと思っております。空港があるという事と、ビューポイントとかそこを使ってインとアウトを両方組み入れて、そこにどうしても必要なのが食べ物で、衣食住3つをセットになって、それを組み入れる必要があるのかなと思っておりました。何か参考になればという事で、以上です。</p> <p>（移住分野）</p> <p>商工会議所の取組の一つとして、一昨年全会議所会員に対してアンケート調査を行いました。移住定住を受けたときに定年退職の方が来て避暑地としての移住定住する場合、若い人たちが移住定住となると当然働き口の問題が出てくると思っております。そういう方が移住定住した場合に働き口として受け入れ可能ですかというアンケート調査を実施させていただいたところ、29事業所が受け入れ可能ですという返事をいただいております。町の方にも受入先企業名を全部提出させていただいたところ、そういう形で人を呼ぶときに当然働き口がないとなかなか移住できないというのが実情だと思いますので、商工会議所としては働き口を確保できるような仕組みづくりをさせていただいているのが一つです。また、オホーツク管内で商工会議所の協議会を組織しているのですが、先般池袋サンシャインで北海道フェアがあったときに昨年は物販で行きましたが、今年は物販をやめ、IターンUターン対策の一環として参加をさせていただき、ブースを設けたのですがそこになんと美幌に戻りたいという女性1名が来られまして、1週間くらい後にその女性が東京から美幌に来られ、うちに寄り、たぶん協会にも寄ったかもしれませんが、その29のリストを見せながら美幌に戻ってきたいという希望に対する活動をさせていただいているところです。</p>
水島委員	<p>（子育て分野）</p> <p>私も子育てさせていただいて、小さい時から今上の子が18歳高校3年生になるんですけども、小さいとき手のかかる時、私も外から来た人間だったので、実家がない所での子育てで、やっぱり自分に何かあったときに預けられる場所、自分が病院に行きたいときに一時的に預けられる場所や産婦人科がなかったんですけども、救急車ですぐ対応してくれるように登録すればすぐ対応してくれるという様な取組ですとか、子供を産</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
井上委員	<p>んで育てて行く期間の新たな支援としてオムツ用のごみ袋など、とても子育てしやすい町だなと思っております。近くにリリー山とか5分くらい行けば子どもがスキーさせられたりとか、学校にスケートリンクがあって冬のスポーツをさせたりとか、本当に子育てさせやすいなと思っております。ただ、ちょっと言いにくいのですが、その先ですね、今子供が15と18で両方とも進学なんですけど、そうなったときに子どもの夢を叶えるためにやっぱりうちの子は2人とも町外に出てしまうんですね。それを考えると、とても15くらいまでは育てやすい環境でいさせていただいたなと思っております。子供の夢を叶えるとなった時に、美幌の町で夢を叶えられるかというところちょっと選択肢が少ないかなというのは親として思ったところなんです。いろんな子どもさんがいらっしゃって、いろんな夢があると思うので、一概に選択肢を美幌の町で増やせというのはちょっと難しいことかもしれないんですけども、高校の進学とかを考えたときに美幌高校の校長先生がいる前で言いにくいんですけども、周りの子どもが進学する子どもの話を聞くと、美幌高校がいいと言って進学を希望する子がどれくらいいるかなと。やっぱり聞くと美幌高校でいいという選択肢にちょっとなっているところが親として進学を迎えて、今やっと気づけたことなんですけれども、そこが危惧するところと言いますか、美幌高校さんいろいろ事情があると思うんですけども、みんな美幌高校がいいと言い、それこそ町外から例えば特進クラスがあって、大学進学がすごくスムーズに行きますよとか、すごく授業数が多いんですけども合格率がいいですよとか、そういう子供たちが魅力を感じる高校であればみんな美幌高校がいいと言って、北見からとか網走からも来てくれるのではないかと、もしくは部活に特化して体育科があってその部活を凄く強化して、町外から優秀な選手を呼び込むとか、いろんなやり方があるかなと思うんですけども、美幌高校がいいという選択肢になればいいなと思います。</p> <p>私も子どもが今15歳と13歳と7歳で3人とも男の子なんですけれども、やっぱり今水島委員がおっしゃるとおり、うちの子も受験生で町外に出る予定なんですけれども、やっぱり学力とかで次の大学のことを考えるんだったら町外の高校というので、やっぱりそっちに行っちゃったり、もしスポーツとかで長けているものがあるんだったら、選ぶ中で美幌高校の選択肢もあります。美幌は陸上もみんな一生懸命やって速いって思われている割には、陸上で美幌高校でっていう環境が整っていないのかなと。他の一生懸命やっているところと同じくらい走れる場所が、整っている環境が美幌にはあるのかなと、私自身ちゃんとはわからないんですけども、美幌町にいたい、来たい、親も美幌高校に行かせたいと思えるようなのを高校だけじゃなくて、町の人にもそれに関わって一緒に考えて行って、美幌高校がなくなっちゃったらすごく大変だと思いますので、たくさんの子が行くように町民も考え、もっと身近で、美幌高校に行ったら、勉強でも特進クラスに行ったら進学できるし、スポーツも美幌高校は勝って頑張っているから、企業もそれで応援してお金も出してくれたりとか、そういうのとかがあったりしたらまた違った見方があるだろうし、全部高校に丸投げじゃなくて、やっていったらいいなと思います。あと子育ての面でいえば、小さなお子さんがいる家庭には、すごく充実したところが多いのかなと。私たちの時にはオムツのごみ袋がなかったり、そういうのが若いお母さんたちにすごくいいってよく聞きますし、きてらすとか子供を連れて気軽に遊びに行ける場所があるっていうのも、町外から転勤してきた人とかでこういうのがあるのはいいですねっていう話も聞くので、そういうところはいい</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	<p>いなと思うんですが、たぶん最初から美幌にいて美幌しか知らなかったら、その良さがわからないままいるのかなっていうのもあって、私は1回主人の転勤で興部に3年間だけ行ったんですけども、そうするとやはり美幌が住み良かったんだなと町の大きさもコンパクトだけれどもそこに大体の生活環境が整ってたり、ちょっと大きな買い物したいときにも北見とかに行けたり、観光も美幌の観光は峠とかもありながら、美幌を拠点として2時間、3時間で行ける所が多くてそういうのもヒントにできないかなと、滞在は美幌にしてもらって観光でもそこから釧路の方に行ってみたり、帯広の方に行ってみたり、いいところではあると思うので、その短期移住者の方とかにも1回体験してもらったら、良かったところをもっと町民含めてアピールしてもらって、町民ももっといいと思うところをアピールできる場所とかがあればいいのかなと、ちょっと漠然としてるんですが思います。</p>
後藤政策主幹	<p>感覚的な部分で結構ですが、先ほどホワイトボードでお示した医療費の分野ですとか、小学生までで行政の方でやっている事業などを示させていただいたところですが、子育て支援としての考え方として、こういうところが不足しているという点はいかがでしょうか。</p>
水島委員	<p>どこまでが子育てという考えによりますが、小学校までの支援でいえば私は十分と考えています。少年団活動に対する補助もそうですし、出産とか就学前の医療費だったりとか、小学校に上がるまでの子供たちは風邪をひいたり、小学校入学後もそうですが、怪我することも多いので、助成していただけるというのはとてもありがたいです。</p>
後藤政策主幹	<p>課題認識としては、中学校に上がってからのの方が本町の課題としてはあるというところでしょうか。</p>
井上委員	<p>医療費が中学校も出してもらえるようになって、それはとても助かっていて、さらに言えば高校生からすごくお金がかかるじゃないですか。だから町で0.5割出している部分を更に高校生に充ててもらえないかなと。個人的には一番お金のかかるのが高校に入ってからなので、ちっちゃいうちにお金をためておいて、そこでという感じなのかなとも思うんですが。</p>
水島委員	<p>感覚的に子供が小さいと、お母さんも働けないというのがあるから、きつこうやって補助を手厚くしてくれているのかなと思っていたんですよ。子どもがある程度大きくなるとお母さんも働けるでしょうという事なのかなと思っていたんですけども、そうなると世帯収入が増えて、国の補助とかがあまり受けられなくなるというのも矛盾しているというか、どこまで働いていいんだろうという母親のところがあります。</p>
後藤政策主幹	<p>今2期目の計画策定の中で、現状の取組で抜け落ちているところだとか、十分満足されていないのかというところを精査させていただいているところで、その抜け落ちているところを課題と捉え、町としてどれだけのことができるのかという分析をしないと、満足度の高い美幌町になって行かないのかなと思っております。その中でも、限られた財源の中で実施するということで、どこに重点的な目を向けて行くかというところを2期目の計画に反映できればと考えているところです。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	<p>医師確保対策について、国保病院の2月で産婦人科の先生がいなくなった後の先生は確保まだできていないですよ。問題は産婦人科の先生が出産支援に該当する産婦人科の先生なのか、それ以外の婦人科の先生だったのかその辺が明確ではないので、出産支援だと医師は絶対必要だと思いますし、産むというのは別としてもその前後のフォローは絶対に必要だと思います。話を聞くと出産後の支援施設である元の旧保健所のピアがなくなるという話もあるので、それを考えたときに国保もない、そういうところもないとなると、北見にすぐというのはなかなかないので、大変かなと思うところです。</p>
小室総務部長	<p>国保病院で婦人科の先生がいらっしゃって、残念ながら諸般の事情で引き上げられてしまうのですが、今までの先生は婦人科ですね。いわゆる出産はできるんですが、出産を扱う医師、病院があるという事は2人体制でなければ、何かあったら困るので、1人で扱うというのはなかなか難しいようで、婦人科に特化してやりますよということだったんですけども、婦人科のみで行くと、なかなか患者さんにも来ていただけなくて、十分な患者を確保ができないというジレンマもありました。引き続き医師の確保はこれからもやって行くんですけども、非常に産婦人科の医者は厳しい現状です。同じように小児科の先生も非常に厳しくて、今田中先生がいらっしゃいますので、当面はいいんですが例えば子供たちを専門で診れる先生がいなくなったとすれば、いろんな予防接種ですとか、そういうところにも影響が出て来ますので、もちろん産婦人科も大切なんですけれども、子供たちを診察できる先生をしっかりと確保できないと、子育て全般に影響が出てしまうので、そこは力をいれてやっているところです。</p>
村田委員	<p>今ちょっと病院の話が出たので、厚生労働省が9月に再編統合の議論が必要な公的病院という事で、424カ所という事で示され、道内で54箇所。たまたま美幌は入っていなかったんですけども、地方創生を進めている時にこういうことを出すこと自体が、北海道の地域の実態を知らない人が出したかどうかはわかりませんが、問題のあるやり方だなというふうに思いました。病院が町の中核施設であるという事は、厚生省の人たちも当然わかっている話と思うんですけども、その地域に病院がなくなってしまうような、今回の様な表現の仕方もあるので、そういうことに対しては、美幌町も含め北海道一体となって、町村会としては要望書も出しているようですが、要望書でいいのかと疑問に思いながら、本当は抗議文でも出すべきものではないかと思います。そういった中で、地方の医師、医療従事者対策は、人を集めることが、非常に大変な状況になっている訳ですから、国にきちんと要望すべきでありますし、こういう発表に対しては、町としてきちんと対応しないといけないと思います。たまたま、美幌も4人も一度に医者がいなくなるということで、町民もかなり不安に思っているのではないかと思います。美幌もたまたまこの中には入らなかったけれども、個別に大変な状況になったという事含めて、国に対してもしっかりと対応してもらえるように美幌の姿勢を示すべきだと思います。</p>
小室総務部長	<p>今回厚生労働省が示したものはかなり乱暴、唐突感があったわけですが、当然うちの平野町長も機会あるたびにきっちり声を届けています。東京に上京した際に、関係省庁に顔を出しますし、地元代議員にもお願いしております。国保病院は4人の先生方のうち、1人は定年退職、後の先生もそれぞれ事情がありまして、例えば親の介護ですとか、自分の子供が受験を</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
鎌田委員	<p>控えているですとか、それぞれ事情があるんですね。どうしても家族の近くに帰らなければならないという事がありまして、そういう話を乗り越えて、美幌のために残ってほしいのですが、今回は致し方ないということで、退職を認めた経過にあります。なんとか来年の4月までに現在6名なんですけど、しっかり常勤の医師を確保するために、例えば医師を紹介してくれる会社がありますので、そういうところに出向き、なんとかして欲しいと。一つメリットとしては、先ほども出ましたが、美幌は空港から15分で来れますので、全国から医者に来ていただいている環境が整っております。週末は例えば東京にすぐに帰れますよと。そういうメリットを最大限に活かして、医師確保にしっかり取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>（教育分野など）</p> <p>本校はご承知のとおり普通科と農業科の複合科になっておりますので、両方を活かすということで、教育内容の改善をしながら、先ほどお話のあった部活動のことなど、現有の限られた人数でやりますので、なかなかご希望に答えられず、特に部活動については、なかなかスムーズにいきませんので、その辺は苦勞かけているなというのがあります。ただ、どの地域も学校教育全体で話をしたときに、これから進めるべきことというのは、幼少中高大の一貫した教育学習プログラムをつくって、子ども教育の連続性を図って地域に残るとか、そういう観点で物事を考えて行かないと、何となくいろんな状況の中で、あれもこれもというのは多分無理がかかるので、大きな国の方針と各都道府県の方針の中で、こういう人材育成をするという観点をもって整理統合し、話を進めるという事が大事かと思えます。ざっくりした考えではありますが、それに基づいてある程度やる必要があるかなと思っております。皆さんご承知のとおり少子化になっておりますので、北海道530万人の人口の中で、この広域性に高校を置いて幼小中高があるわけなので、お互いにいろんなことを考えて行かないとなかなか皆さんが今委員の方からありましたとおり、魅力を発信しながら、魅力のところを辿り着ける形を作ればいいんですが、なかなか難しい部分もちょっとあるのかなという考えです。私どもについては、今来ている子供らに少しでも自分の進路選択または進路実現に向けた中身が3年間しかありませんので、いろいろ町から支援をいただきながら、外部との連携ですとか、先ほどお話した学校外での活動の部分で子供らが接触する様な活動的なところを少しでも増やして行って、取り組んでいるのが現状です。今年度の新しい取組の中で、農業科の中身ですけれども、今オリンピック2020がありますけれども、今私どもの学校とホストタウンの関係で士別市と連携をとって、本校トマトでGAPの認証を受けていますので、そのトマトをつかったハンバーガーを士別市が台湾の選手が来る地域なんですけれども、全国40チームの中の1地域という事でうちがエントリーされておりますので、この後12月20日過ぎに全国の農業高校と自治体がセットで、農業高校でGAPを取っていないければエントリーできないんですが、道内8校ある中で、うちはトマトをつかって、士別市の羊の肉が上手いかわからないみたいでどこの肉を使うかは別にして、ハンバーガーをほぼ全部GAPの認証制度を活用した商品をつくっています。あと、うちのもので行くと士別も日甜がありますので、両方かけ合わせのたれをつくったり、そんなことをやって海外の方に少しでもおもてなしをするということなんです。私どもの関係では、もう一つは十勝の士幌高校と釧路市、この2つが道内ではエントリーして出ますので、広くアピールしていこうかなと思えます。答えにはならないんですが、少しでも新しい物を取り入れてやって行きたいと</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	<p>思います。</p>
後藤政策主幹	<p>横山会長のお話で農福連携については、産学官の取組に金融機関の金はいっていますか。</p>
横山会長	<p>本日来ておりませんが、網走信金さんが金融機関として関わっていただいております。美幌高校の絡みでは、町で対策協議会が作られている部分で、いろいろ趣旨は検討させていただいているところで、次年度新しい施策を立てる部分で、受け皿として進学は別としても、地元で就職したいという子供たちにどういふふうに対応していくかという部分含めて、JAさんと森林組合さんなども、今年採用していただいている、色々な部分で地元採用枠もあるし、うちの方も井上委員が先ほど一部お話のあった企業がお金を出してという部分で、病院などはよく准看だとか看護学校だとかに病院がお金を出して学校へ行かせて、卒業したら病院に入るという仕組みづくりが今北見工大には既にあって行っているみたいですが、会議所として何ができるかという部分で、うちの北見工業大学版ではないですけれども、美幌高校に入るという前提で、卒業後就職は間違いなく美幌町に就職できますよという部分で、そういう企業も支援できる方策がないかなということで、うちの方でもいろいろ検討させていただいているところです。間違いなく美幌高校に入れば、町内就職 100%できますという何かしらそういうものをひとつ作り上げたいなと考えております。</p>
鎌田委員	<p>進学の話も出ましたので、大学等について、北見方面の高校もそうですが、全国的に指定校枠というのがありまして、だいたい2～3人ですが、今少子化なのでほとんどの学校であります。推薦とは別で、推薦枠は推薦の中で合否が出ますが、指定校枠は学校としての枠となります。実態を知らなければならぬため、管内全ての40校近くの中学校回りまして、その中で一部から美幌高校に行ったら、どこどこの大学に入れますよというのを明示してくれないですかねと。それは普通科になりますが、農業科は別問題なので、そんなことがあって私どもいる側からすると、指定校枠と推薦があって、自分からすると当たり前のように思っていたものですから、それを実は保護者からどこどこに入れるんですかということが聞きたいという事があって、それを一覧にして中学校訪問の時に配付してくれないですかというご指摘がありまして、そういうことを明確にこの大学は80校ある中で、推薦でそのうち指定校枠は55ありますよとか話をいただければ、北見の方に行かなくても自分が希望するところがうちの学校に指定校枠があるのであれば、朝早く起きなくても近くの学校でもいいのではないかとそんなことがあったものですから、来年度から資料として出して行こうかなと思っております。</p>
横山会長	<p>本日は色々なご意見を賜りましてありがとうございます。多分まだ話足りない部分もあろうかと思いますが、もし何かありましたら遠慮なく事務局に出していただき、それらをまとめて最終的に委員さんにお諮りさせていただきたいと思っております。その他で事務局からございますか。</p>
中村政策担当主査	<p>今回皆様からいただいた意見を基に素案という形で次回示させていただきたいと考えております。町の予算の関係もありますので、可能であればこの会議を2月に開催させていただき、その後パブリックコメントという流れで、一般住民の方にも素案に対する意見をいただいたうえで、4月から</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
<p>横山会長</p> <p>水島副会長</p>	<p>新しい計画の元、事業推進して行きたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。</p> <p>他、委員から意見がなければ、14時30分からという中で、長時間にわたりますてご審議を賜りまして誠にありがとうございます。前回同様に最後の締めは副会長が締めるという事になっておりますので、水島副会長の締めで終わらせていただきたいと思います。</p> <p>皆さんお疲れ様でした。町内でもちらほらインフルエンザもきておりますので、皆さん健康には気を付けて手洗い、うがい、乳酸菌の名前の入った飲み物もありますが、それらに加えて笑顔で笑うと免疫もあがるということなので、皆さん笑顔で今年一年を頑張っていきましょう。本日はお疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">了</p>